

阪神・淡路大震災 30年連続シンポジウム vol.01

創造的復興は成し遂げられたか

— 震災復興における建築家と職能団体の役割を考える —

2024年12月8日(日)13:30~16:30

会場：芦屋市民センター本館（芦屋市民会館）301室（兵庫県芦屋市業平町8-24）



趣旨

1995年1月17日5時46分、明石海峡を震源とするマグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生、6,434人に達する尊い命が犠牲になり、神戸・西宮・芦屋をはじめとする現代の都市においても甚大な被害をもたらす大震災となった。

阪神・淡路大震災は、建築家たちが被災地域の住民に寄り添った生活再建等復興に向けた活動に取り組む初めての機会となり、その背景では震災前の平時における地元と専門家たちのネットワークの存在が復興に寄与したことが確認されている。また、災害復興に際しては、こうした地域の日常の暮らしの中で培われた文化や景観を継承していく視点も重要である。

2025年は阪神・淡路大震災の発生から30年を迎え、また2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地においても復興が本格化する時期にあたる。こうした時期にあって、本企画は、阪神・淡路大震災の発災直後から復興過程における専門家の関わりを振り返り、南海トラフ巨大地震等広範囲にわたる同時多発的な災害に備える建築家をはじめとする専門家と市民との協働の活動に向けたきっかけとしたい。

1回目のシンポジウムでは、復興過程の経緯とともに、建築家や職能団体はどのように関わり、どのような役割を果たしたのか、当事者の語りから振り返る。次世代の視点を交えた議論を通じて、建築家の仕事について共有、継承する機会とする。

パネリスト

小島 孜

建築家・アーキコラボ小島研究室

野崎 隆一

建築家・遊空間工房・神戸まちづくり研究所

江川 直樹

建築家・関西大学名誉教授

コーディネーター

阿部 俊彦

アーバンデザイナー・立命館大学理工学部准教授

柴山 直子

建築家・柴山建築研究所

プログラム

13:30～13:40

挨拶・趣旨説明

13:40～14:55

各パネリスト・コーディネーターによる震災の復興事例・活動の紹介

小島 孜「芦屋市西部地区震災復興区画整理事業」 野崎 隆一「阪神・淡路まちづくり支援機構、神戸まちづくり研究所」
江川 直樹「芦屋市若宮地区震災復興住環境整備事業」 柴山 直子「神戸市長田区真野地区・東尻池コート」
阿部 俊彦「宮城県気仙沼市内湾地区復興まちづくり」

15:00～

パネルディスカッション

パネリスト

小島 孜

建築家・アーキコロポ小島研究室

1943年生まれ、大阪大学構築工学科卒業、ヘキサ設立を経て1994年より近畿大学理工学部教授。阪神・淡路大震災では、近畿大学復興まちづくり支援チームの一員として芦屋市西部地区復興区画整理事業等に携わる。一連のコラボティブ住宅（都住創）にて日本建築学会賞（作品）、門真市朝日地区木賃住宅密集地共同建替「カルチェ・ダムール」にて日本建築学会震災復興記念賞受賞。

江川 直樹

建築家・関西大学名誉教授

1951年生まれ、早稲田大学大学院修士課程修了、現代計画研究所大阪事務所設立を経て、2004年より関西大学環境都市工学部教授。阪神・淡路大震災では、芦屋市若宮地区震災復興住環境整備事業、南芦屋浜団地、被災マンションの再建等に携わる。日本都市計画学会賞、都市住宅学会賞、土木学会デザイン賞、文部科学大臣表彰科学技術賞などを受賞。

コーディネーター

阿部 俊彦

アーバンデザイナー、立命館大学理工学部准教授

1977年生まれ、早稲田大学大学院理工学研究科修了、現代計画研究所大阪事務所、DAN計画研究所を経て、LLC住まい・まちづくりデザインワークス共同設立。気仙沼市内湾地区の復興まちづくり、内湾ムカエルや八日町236の設計やアーバンデザインの実績により土木学会デザイン賞、日本都市計画学会計画賞、都市住宅学会賞などを受賞。

野崎 隆一

建築家・遊空間工房・神戸まちづくり研究所

1943年生まれ、神戸大学建築学科卒業、東急不動産、ZOOM計画工房を経て、1986年遊空間工房設立。阪神・淡路大震災では、関西建築家ボランティアに参加、被災地でマンション再建、市場再建、住宅の共同再建などに携わる。以降も東日本・熊本・能登半島等にて復興支援に携わる。兵庫県復興功労賞・社会賞、国土交通大臣賞、内閣府防災担当大臣賞などを受賞。

柴山 直子

建築家・柴山建築研究所

1965年生まれ、奈良女子大学住居学科卒業、長谷川工務店（長谷工コーポレーション）を経て、1994年柴山建築研究所設立。阪神・淡路大震災では、宮西悠司氏、乾亨氏とともに神戸市長田区真野地区・東尻池コートのコーディネーター・設計に携わり、自主管理の支援を継続中。東近江市五個荘金堂伝建地区町並み保存、大津市大津百町の景観や町家再生に取り組む。

創造的復興は成し遂げられたかー震災復興における建築家と職能団体の役割を考えるー

連続シンポジウム 第2回予告

日時：2025年1月19日（日）13:30～16:45

方法：会場対面（定員50名）ZOOMリモート（定員100名）

会場：芦屋市民センター別館（公民館）

パネリスト：小浦久子（奈良文化財研究所）、津久井進（弁護士・芦屋西宮法律事務所）、JIA東北・九州・北陸各支部建築家

日時

2024年12月8日（日）

13:30～16:30（開場：13:00）

開催方法

会場対面（定員50名）+ZOOMウェビナーによるリモート（定員500名）

会場

芦屋市民センター本館（市民会館）301室

（兵庫県芦屋市平町8-24）

阪急「芦屋川」駅から南へ徒歩7分

JR「芦屋」駅南出口から西へ徒歩7分

阪神「芦屋」駅から北へ徒歩8分



参加費

無料

申込方法

以下のGoogleフォームを通じて申込をお願いいたします。

<https://forms.gle/5NGc3P62y4ZDdUwu6>



リモート参加申込者の方々には事前にURLをお送りいたします。

申込締切は、2024年12月4日（水）中とします。

問合せ：JIA 近畿支部事務局／担当：穴井宏樹

E-mail：jia@bc.wakwak.com

主催：（公社）日本建築家協会（JIA）近畿支部 兵庫地域会+災害対策委員会+都市デザイン研究会

後援：（公社）兵庫県建築士会、（公社）大阪府建築士会、（一社）大阪府建築士事務所協会、（一社）日本建築協会（以上予定）

問合先：（公社）日本建築家協会近畿支部 〒540-0051 大阪市中央区備後町2-5-8綿業会館4階 T:06-6229-3371 F:06-6229-3374